

四季報

建築士事務所協会東北支部青年部活動 NEWS
～ 後期号 ～ 2009年2月

発行 / (社)福島県建築士事務所協会東北支部青年部
所在地 / 〒960-8061 福島市五月町4-25 福島県建設センター5階
TEL (024) 521-4033 FAX (024) 521-5087

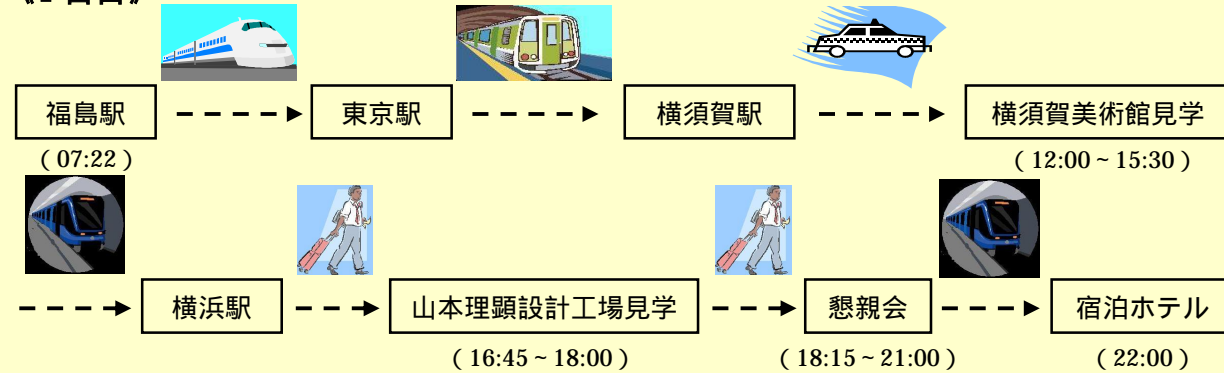
特集 第4回例会

= 東京方面施設見学会 実地報告 =

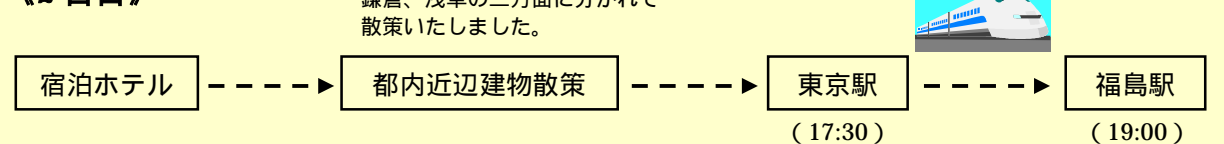
日程概要

実地日：平成20年11月29日(土)・30日(日)

《1日目》



《2日目》



去る平成20年11月29日(土)30日(日)に当青年部の第4回例会として東京方面への視察見学会が行われました。昨年までの見学会は、日帰りでの行程でありましたが今回は、東京方面ということもあり宿泊をともなった見学会となりました。正会員・準会員、合わせて14名程の参加となりました。

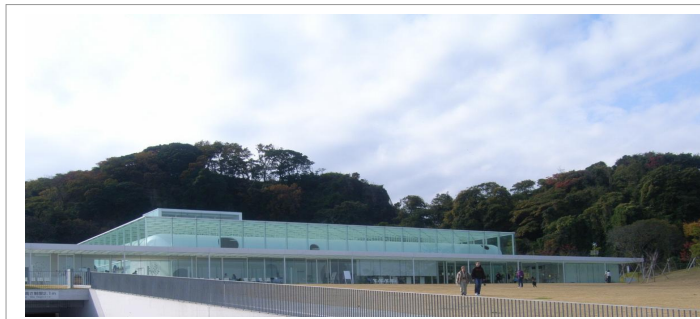
見学会の初日としては、山本理顕設計工場で設計した『横須賀美術館』を当時の設計担当者の方に来て頂き美術館の内部を当時の苦労話などを混じえながら説明を頂きました。また、美術館見学後は、横浜にある山本理顕設計工場の事務所内を見学させて頂きました。

二日目は、都内近辺建物散策ということで鎌倉方面・浅草方面という2班に分かれ各班とも時間の許す限り見学を致しました。両日共、晴天に恵まれ素晴らしい見学会となりました。

それでは、現地で撮影した写真や建築物の詳細、見学会に参加して頂いた会員の感想について紹介いたします。

横須賀美術館概要

名称：横須賀美術館
 設計：山本理顕設計工場
 開館：2007年4月
 所在地：神奈川県横須賀市
 階数：地下2階地上2階
 延床面積：12095.15㎡
 主要構造：RC造 一部鉄骨造



当時、山本理顕設計工場で設計を担当していた安原幹氏(現 SALHAUS 一級建築士事務所 写真-中央)と現在、美術館のメンテナンスを担当している北尾一顕氏(現 山本理顕設計工場 写真-左)に来て頂き美術館内についての説明を頂きました。

この横須賀美術館の設計者選定にあたり、通常のコンペではなくQBS方式(Quality Based Selection: 設計者の代表作品」「設計者へのインタビュー」「管理者・使用者へのアンケート)の三つを評価軸として審査する方法)という方法が採用されたとお聞きしました。

また、設計を進めるに当り、美術館関係者と月に一回の打合せを重ね1年がかりで基本計画を完成させたそうです。この美術館は、北側に海、南側に山(県立公園)といった立地条件にあり海からの塩害を考えるとあまり良い土地条件ではなかったそうです。その塩害対策としては、建物の半分を温度湿度が安定している環境の地下に埋めたり、レストラン ミュージアムショップ ワークショップスペース 管理棟などの外部に開放してもよい施設を美術館本体を囲むように配置したり、外部をガラス張りにして経年劣化の損傷の軽減を図るなどの工夫がなされておりました。

他の特徴としては、見た感じでは、ガラス張りの建物に見えますがガラス張りの中に殻状の内壁を作っており、その内壁を開けることによって光の取り入れる量をコントロールしているそうです。内壁の開口は、光が入りづらい北側が多く南側の方へいくに従って少なくすることにより調節をしています。それに伴い美術品の配置では、光を避けたい油絵や日本画などは南面に配置し、そして北側の明るい場所には、現代美術や彫刻などを配置しています。美術館周辺環境との関わり方としては、南側の県立公園と美術館屋上入口のレベルを同じにして公園からもアクセス出来るようにしたり、内壁に開いた開口より展示室を巡りながら海や山などの景色も楽しめるといった工夫がなされておりました。

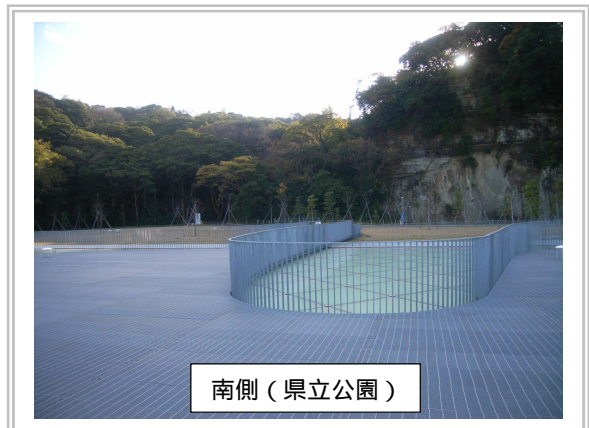
設計者の方に設計に対する考え方や説明を聞きながら建物内を見学させて頂き大変勉強になりました。



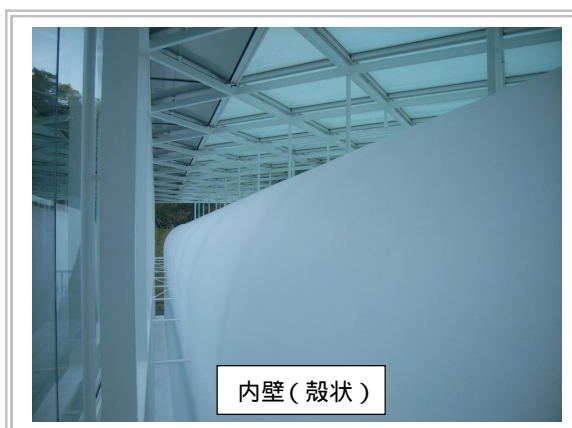
概要説明の様子



北側(海)



南側(県立公園)



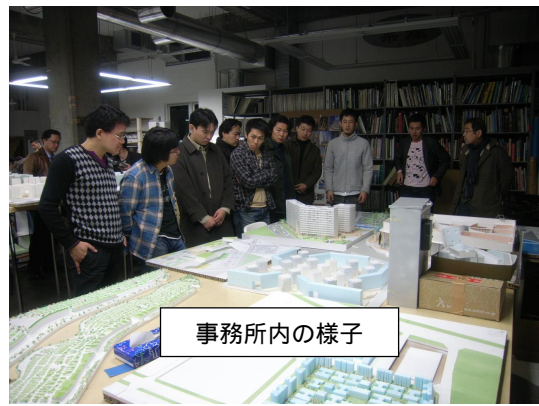
内壁(殻状)



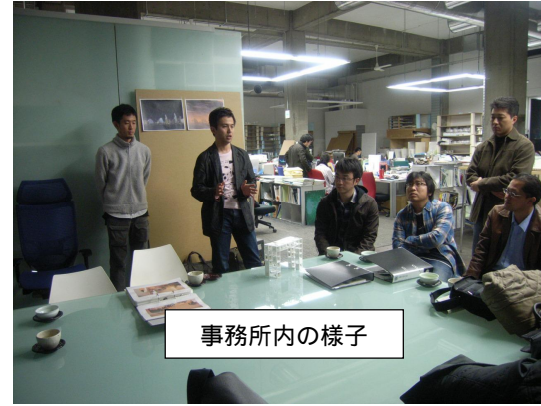
内壁開口

山本理顕設計工場見学

美術館見学後、横浜にある『山本理顕設計工場』へ移動し 仲 俊治氏(建築設計モノブモン 元山本理顕設計工場所属) 日野 雅司氏(SALHAUS 一級建築士事務所 元山本理顕設計工場所属)と合流し、事務所内の見学をさせて頂きました。残念ながらこの日は、山本理顕氏は事務所には不在でしたが職員の方に現在進行中の模型や今まで関わってきた物件についての説明を頂きました。事務所は、以前倉庫として使用していた場所を改造して現在事務所として使用しているそうです。



事務所内の様子



事務所内の様子

交流会

事務所を見学後、お世話になった安原氏、北尾氏、仲氏、日野氏と共に赤レンガ倉庫内の飲食店にて交流いたしました。中央の設計事務所と地方設計事務所の違いなどの話を交わすなど2時間ほどの有意義な交流をいたしました。



横浜赤レンガ倉庫



交流会の様子

【2日目】【(鎌倉方面)(浅草方面)の2班に分かれ建築物の見学を行いました】

(鎌倉方面)

鎌倉駅より北鎌倉駅へ徒歩にて鎌倉周辺に存する寺社仏閣を見学いたしました。現代のコンクリート建築物や鉄骨建築物と比べ日本古来より存する大型木造建築物は、木造ならではの美しさや重厚さを持っており木造建築物の素晴らしさを再確認いたしました。また、民家の軒先をかすめるように走り、路面電車のように道路を横切る江ノ電に乗り江ノ島まで見学いたしました。行程的には、少しきつかったとは思いましたがとても充実し勉強になった見学会でした。



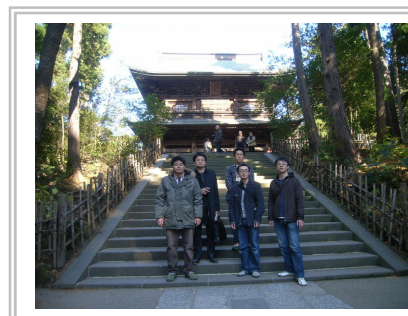
鶴岡八幡宮

本殿は文政 11 年(1828 年)江戸幕府 11 代將軍徳川家齊公の造営で代表的な江戸建築である。国の重要文化財に指定されている。



建長寺

建長 5 (1253) 年に創建された北条氏ゆかりの禅寺。広い境内には、三門や法堂など、目を見張るほどの重厚な柱のある建築物が点在している。



円覚寺

弘安 5 年(1282 年)北条時宗が中国より無学祖元禅師を招いて創建。境内は、国指定史跡、国宝の舍利殿、鐘樓の洪鐘を存する。



江ノ島

神奈川県藤沢市の南にある小島。島が「江」の字の形をしていることが地名のおこりとされる。最高所は標高 60 メートルで台地状をなしている。

(浅草方面)

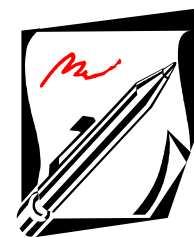
仲見世通りを歩き、浅草寺を参拝。皆様がご存知の通り、東京都内最古の寺院。観音菩薩を本尊とすることから「浅草観音」あるいは「浅草の観音様」と称され、広く親しまれている場所です。そして次の目的地、東京上野の東京都美術館へ。光の天才画家フェルメール展を鑑賞。人物など作品の中心をなす部分は精密に書き込まれた濃厚な描写になっているのに対し、周辺の物はあっさりとした描写になっており、生々しい筆のタッチを見ることができました。このような芸術作品にふれあい、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。そして素晴らしい研修旅行でした。



東京美術館

大正 15 年東京府美術館として創設され、以来 80 余年にわたり各分野の美術団体の公募展会場として人々に親しまれてきました。(フェルメール展を鑑賞)

見学会感想



集合写真

横須賀美術館は内壁、天井(設計者が言う内皮)は鉄板が用いられ、曲面に構成されていた。溶接の跡も見えず、造船の技術が取り入れられていることでした。まさに横須賀らしい技術の地産地消に感動致しました。

(正会員 田中設計事務所 田中宏幸)

山本理顕設計工場では、多忙な山本理顕氏とスタッフの意思疎通がいつでも図れるようにボードが設置されており、最新の状況が分かるようにスタッフがボードにプロジェクトの進捗状況や考えなど貼込んでいるとのこと。そこから山本氏 スタッフ、スタッフ同士のディスカッションがうまれるとのことでした。簡単なことですが所内の意思疎通の方法として勉強になりました。

(正会員 大野建築設計事務所 河野 忠)

浅草で目に飛び込んでくる赤を基調とした町並みは、古き良き江戸の下町といった趣。また、上野の森に林立する美術館や博物館は、さながら都会の芸術公園といった趣。それぞれに異なる東京の多面性を十分に満喫してきました。

(準会員 榊シバテック 八島一史)

横須賀の未来的な建築物を見学した翌日は、数百年変わらない鎌倉の景色へ「タイムスリップ」となりました。北鎌倉に点在する大型社寺建築の厳かな佇まいや紅葉に彩られた庭園は、大変素晴らしいものでした。今回の見学会は、「新しいもの」「古いもの」それぞれの偉大な力を感じた旅となりました。

(準会員 榊穴戸工務店 野地謙一)